



上田市議会議員 **上田大好き** 齊藤達也

たっさんかい

達参会ニュース

2024年(令和6年)第25号

発行人 達参会(齊藤達也後援会) 上田中央2-20-12 討議資料
TEL&FAX 0268-75-0175 E-mail: t.saito.koenkai@gmail.com



昨年も多くの皆さまに様々な形で支えて頂きまして、誠にありがとうございました。市役所の組織改正により、私が委員長を務める産業環境委員会の所管に市政の最重要課題である資源循環型施設(新たに建設予定のごみ焼却施設)整備やそれに関連する生ごみ堆肥化施設整備(裏面ご参照)、地域新電力など2050年ゼロカーボンに向けての取組み等が加わり、非常に責任とやりがいのある委員会活動となりました。

今年は先の重要課題に加え、上田市の先人たちが100年前から築き上げてきてくださった貴重な財産でもある水道事業の合併(広域化)に向けての検討も加速化される見通しです。この数年の私たちの判断が、子どもたち将来世代に与える影響が非常に大きいため、引き続き、強い危機感を持って、是々非々の姿勢で市政に向き合って参ります。本年もよろしくお願い致します。

【質問の意図】

上田市の財政状況の見直しは非常に厳しく、既存事業の見直しやハコモノ（公共施設）の経営改善、公民連携（民間活力の導入）等を積極的に進めなければ、教育・子育てや医療・福祉等、より重要な分野への投資ができなくなります。

新たなハコモノである生ごみ堆肥化施設整備計画は、現時点で建設費が16億円、維持管理費が年間6,500万円程度と見込まれており、市の財政に与える影響は大きく、投資額に見合う効果が見込まれない上、生ごみの分別にかかる市民の皆さまの負担が大きいなど、事業の必然性が感じられないため、私は計画に慎重な立場を取っています。

問 生ごみの分別回収の対象となる地域、人口等は具体的にどうか。

答（環境部長）上田地域の東部、南部、中央、北部など中心市街地や人口が集中している63自治会と丸子地域の建設予定地周辺の9自治会、計72自治会で約57,000人（27,000世帯）。

問 対象範囲を絞ることは、施設整備の主目的である上田市全体で市民がごみ問題を自分事として考えることとは相反すると考えるが、見解はどうか。

答（環境部長）自己処理が困難な地域として中心市街地から分別回収する計画となっている。建設予定地の丸子地域でも理解を得てきたところであり、上田地域の対象地域の方々にも説明会などを通じて認識いただけるものと考えている。

問 生ごみ減量化機器等購入費補助金は、好評につき補正予算計上分も早期に打ち切りとなったが、同補助金を継続していくことが、一人でも多くの市民がごみ問題を自分事として考えることに繋がると考える。令和6年度以降の継続は検討しているか。

答（環境部長）同補助金の累計申請件数は、電気式が約3,600件、コンポストが約2,500件となっており、合計6,100件、9割以上の方が継続使用している。令和6年度は継続するが補助率の見直しを検討している。